



教育の振興と郷土史の研究

みな かわ のぼる
皆 川 昇

(81才)

現住所

仙北郡太田町

皆川氏は、明治44年から昭和18年まで32年余にわたって教職にたずさわり、一貫して初等教育と県内教職員の指導に専念され退職後は村長、教育長、社会教育委員長等を歴任し、社会教育の振興、地方教育委員会の育成強化、ならびに新教育の正常化について献身努力されたほか県老人クラブ連合会理事仙北郡老人クラブ連合会長として積極的に老人福祉の向上など地域社会の発展のために活躍されている。

また、上古から伏見桃山期に至る太田町郷土史の研究と古文書の収集をなされたほか「童謡風土記」「路傍の石碑」など、すぐれた著書をあらわすなど本県の郷土史、文化史の継承に大きく貢献された。



農業気象の観測と農業の近代化

あさ り きく まつ
浅 利 菊 松

(75才)

現住所

北秋田郡田代町

浅利氏は、明治43年当時14才の頃から地域農業が気象条件に影響されることを重視し、以来60年間にわたって気象の観測を続け、その克明な記録は農業気象観測資料として尊重され地域農業ばかりでなく他産業の発展にも大きな役割を果たしているほか同じ頃から記録された農作業日誌、米価、諸物価の動向、当時の農村慣行等の資料は本県農民史、農村経済史上貴重な存在となっている。

また、経営の近代化をはかるため水田裏作の推進による多角利用ならびに農業共同化の推進につとめるなど本県農業の振興に大きく貢献された。



民謡の普及と後継者の育成

とり い ぎ すけ
鳥 井 儀 助

(芸名 鳥井 森 鈴)

(72才)

現住所

南秋田郡五城目町

鳥井氏は、大正13年五城目町に森鈴会を結成して以来、県内各地に森鈴会の支部をつくり民謡の普及と後進の育成に献身努力され、特に同地方に古くから伝えられている難渋な追分節と江差追分等を取り入れた「秋田追分」を完成し、これを発表するなど多くの秋田民謡を全国に紹介したほか後継者の育成に大きく貢献された。



教育の振興と詩の指導普及

たけ　　うち　　えい　　じ　　ろう
竹　　内　　栄　　治　　郎

(筆名 竹内 暎二郎)

(67才)

現住所

秋田市

竹内氏は、大正14年から昭和38年まで39年間にわたって教職にたずさわり県内各地の小、中学校長、県視学、県教育委員会課長等を歴任し、初等教育の振興に専念された。退職後県教科指導員を委嘱されてからは、新しい教育指導法の普及と、指導技術の向上に尽され、また家庭教育学級、青少年のサークル活動、PTAなどの各講師として生涯教育の啓蒙に努められている。特に国語教育については、「字体と筆順」など多くの著書を刊行し、その普及をはかるとともに国に対しては矛盾点の指摘など普遍性の確立のための意見を具申し、その見解の深さと、妥当性は高く評価されている。文芸面においても詩作と詩の指導をとおして地方文化の向上に尽されているほか昭和24年以来秋田魁詩壇の選者として後進の育成にあたられている。

また、県内の各学校の校歌や市町村民歌を作詩されその数はおおよそ200編にも及び愛校心、愛郷心の育成と情操教育に大きく貢献された。



漁業の振興と発展

さ さ き とも きち
佐々木 友吉

(65才)

現住所

由利郡金浦町

佐々木氏は、昭和15年金浦町漁業会監事に就任して以来30年余にわたり漁業関係団体の要職を歴任し、その間沿岸漁業協同組合組織を確立させるとともに、漁獲生産物の効率的な販売と、価格安定対策の一環として魚市場の開設を果たした。また新漁場を開発して、沿岸漁業に付随する漁場紛争を解決し、さらに沿岸小型漁船漁業の近代化大型漁船による沖合底びき漁業の開発、漁業従事者の高令化対策として省力機械の導入の推進をはかったほか、漁民の基盤である漁業協同組合を強化するため積極的に組合合併にとりくみ、これを見事に成功させるなど本県漁業の振興と発展のために大きく貢献された。



地方自治の振興

かとう 加藤 茂

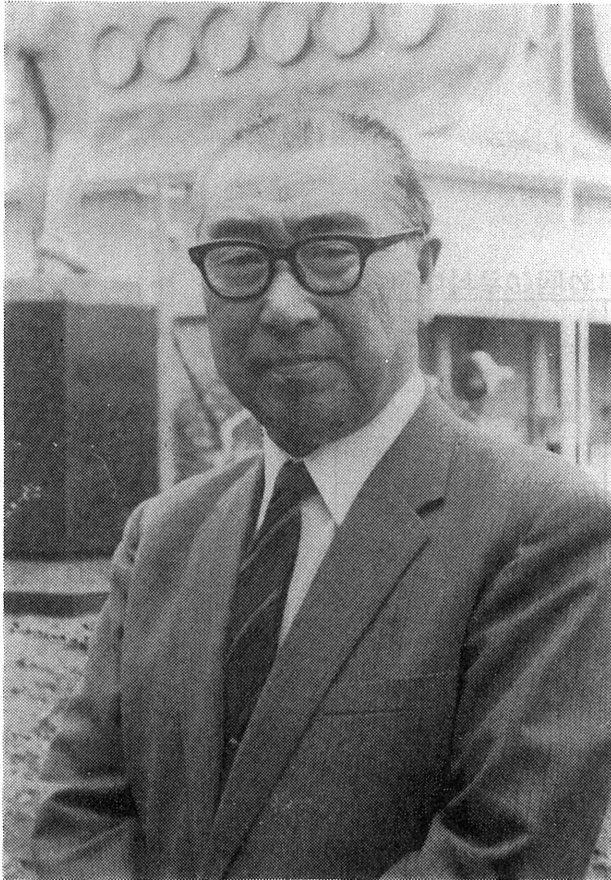
(65才)

現住所

由利郡由利町

加藤氏は、昭和25年村長に就任以来21年間にわたって町政を担当され、その間政争の激しい村を自治精神の啓発により、住民に協調と親和の理念を定着させ、民生の安定を図った。さらに町村合併促進法が施行されるや、いち早く町村合併の大役を果し、辺地の振興、公有林の整備、簡易水道の拡大、中学校の統合、道路網の整備、農業近代化の推進ならびに経営改善事業等、数々の施策を達成したほか町村福祉の飛躍的な向上をはかった。

また、税務事務共同処理など広域事務処理についても積極的に取り組むなど地方自治の拡大発展に貢献された。



郷土史の研究と編さん

は せ べ 哲 郎

(64才)

現住所

秋田市

長谷部氏は、14年間にわたる教職をはなれてから、県および県内市町村の史実の研究に専念され、難解な古文書の読解に非凡な才能を発揮され「秋田県史」「秋田県政史」「秋田市史」など多くの県史、市町村史などの編さん執筆に努められ、また天徳寺表文書を整理して「出羽路」に発笈、さらに「秋田の先覚」立県百年記念刊行史「秋田のあゆみ」の企画、編さん、執筆にあたられた。これらはいづれも史学研究上貴重な資料として高く評価され本県郷土史の解明に大きく貢献された。